

(総括評価表〔付表:戦略12〕)

取組みの方向性	百年の礎を築く	戦 略	【戦略12】悠久の宝の継承 ～熊本を磨き上げ、引き継いでいきます～	施策数	取組数	H24事業数	H25事業数	H24決算	H25予算
				6	12	35事業	35事業	1,195,431千円	1,401,049千円

1 戦略の内容

(1)現状と課題	
本県には、加藤・細川をはじめとする歴史・文化、阿蘇の草原、豊富な地下水などの自然や景観など、地域から愛され、守られてきた世界に誇る資源が溢れています。このような熊本の宝を、県民を挙げて磨き上げ、生かし、未来へと継承していく取組みが必要です。	
(2)概 要	
ラファティオ・ハーンが提唱した「簡易・善良・素朴」の熊本スピリッツ(精神)のもと、特に、熊本の誇りであり宝である「熊本の地下水」「加藤・細川400年の歴史・文化」「阿蘇の草原」をはじめとする熊本の優れた文化や、先人達によって慈しみ、守られてきた豊かで心安らぐ熊本の原風景を守り、磨き上げ、次世代へと継承します。	
(3)体 系 (単位:千円)	
①くまもとの歴史・文化の磨き上げ、継承	◆歴史・文化を磨き上げる〔施策57〕 ～地域にある歴史と文化の磨き上げと情報発信～ 【担当部局:企画振興部・商工観光労働部・土木部・教育庁】
	(H24事業数・決算/H25事業数・予算) 11事業 314,719 11事業 323,640
	◆世界遺産登録をめざす〔施策58〕 ～世界遺産登録に向けた取組みの推進～ 【担当部局:企画振興部】
	(H24事業数・決算/H25事業数・予算) 1事業 43,273 1事業 45,813
②くまもとの自然・景観の保全・継承	◆県民と共有する〔施策59〕 ～地域の宝の共有と将来へわたって守り・育む仕組みづくり～ 【担当部局:企画振興部・商工観光労働部・農林水産部・教育庁】
	(H24事業数・決算/H25事業数・予算) 9事業 112,003 11事業 125,701
	◆地下水を守り抜く〔施策60〕 ～地下水保全対策と「水の国くまもと」の実感できる取組みの推進～ 【担当部局:環境生活部】
	(H24事業数・決算/H25事業数・予算) 5事業 25,478 5事業 45,442
	◆阿蘇の草原・景観を引き継ぐ〔施策61〕 ～阿蘇の草原と景観の保全・継承～ 【担当部局:企画振興部・商工観光労働部・農林水産部・土木部】
	(H24事業数・決算/H25事業数・予算) 6事業 87,135 4事業 84,207
	◆素晴らしい景観を守る〔施策62〕 ～素晴らしい景観の保全と活用～ 【担当部局:農林水産部】
	(H24事業数・決算/H25事業数・予算) 3事業 612,823 3事業 776,246

2 戦略の評価

(1)指標の推移・分析						
指標〔単位〕	策定時	H24 〔達成度・増減〕	H25 〔達成度・増減〕	H26 〔達成度・増減〕	目標値(H27) 〔単位〕	前年度からの推移の分析
① 文化施設の利用者数〔万人〕	94.8 (H23)	102.9 <102.9%>			100 [万人/年(単年)]	マスコミ等を活用したPR効果により、目標達成。
② 世界文化遺産登録に関連する資産の国指定(選定)件数〔か所〕	5 (推計値)	11 <78.6%>			14 [か所(累計)]	資産の価値付けや所有者の同意取得が順調に進み、意見具申へと至ったため、着実に増加。
③ 【補】松橋収蔵庫フィールドミュージアム事業における参加者数〔万人〕	1 (H23)	1.6 <80.0%>			2 [万人/年(単年)]	企画展示、移動展示、移動体験教室などの参加者が増加したため。
④ 【補】細川コレクション 永青文庫展示関係の入場者数〔万人〕	3 (H23)	4.3 <107.5%>			4 [万人/年(単年)]	細川コレクション常設展示室の拡張により、目標達成。
⑤ 熊本地域の地下水涵養増加量〔万㎡〕(白川中流域水田灌水事業等による涵養量)	2,065 (H23)	1,675 <46.5%>			3,600 [万㎡(単年)]	熊本広域大水害により水田等が被災したため、涵養量が減少。
⑥ 【補】景観行政を行う市町村数〔市町村〕	7 (H23)	7 <43.8%>			16 [市町村(累計)]	関係市町村では、H25・26年度の景観行政団体への移行をめざして準備が進められているため、H24年度は実績なし。
⑦ 【補】野焼き・輪地切りボランティア参加者数〔人〕	2,137 (H22)	2,103 <67.0%>			3,137 [人/年(単年)]	H24年4月の野焼き事故の影響で9月までボランティア活動を休止していたこともあり、H23年度(2,307人)に比べ約200人減少。
(2)平成24年度の主な成果		(3)平成25年度の推進方針・推進状況		(4)戦略を推進する上での課題		(5)今後の方向性
●熊本近代文学館における歴史・文化の発信機能の拡充等に関して有識者の意見を聞いて検討。 ●鞠智城の知名度や歴史的価値の認知度上昇。温故創生館入館者数がH23年度108,333人から117,291人に増加。 ●「加藤・細川ヘリテージ(遺産)」プロジェクト事業の一環として「くまもと歴町50選」60地区を選定。 ●「天草の崎津集落」が「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の構成資産に追加され、H25年度の国推薦をめざし、H25年1月に推薦書案を文化庁に提出。 ●「九州・山口の近代化産業遺産群」及び「阿蘇」についても、国文化財指定の追加や管理保全計画の策定等、取組みが進捗。		●熊本近代文学館の機能拡充への基本計画を策定。 ●温故創生館入館者数を前年比約1.3%増加させ、鞠智城の知名度や歴史的価値の認知度向上を推進。 ●「くまもと歴町50選」を発展させ、町並みの保全、再生に向けた取組みを加速化。 ●「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」及び「九州・山口の近代化産業遺産群」について、推薦書案の内容精査や推薦に向けた資料作成等を実施。 ●「阿蘇」について、都市各市町村毎の景観計画・景観条例を策定。		●熊本近代文学館の情報発信機能の拡充に向けた基本計画の策定。 ●鞠智城の学界等での認知度向上と研究活性化。 ●町並みの保全等に向けた民間や関係自治体との連携推進。 ●「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」及び「九州・山口の近代化産業遺産群」について、推薦書案の更なる精査。資産範囲における保存管理の考え方や整備活用の整理。 ●収集資料を活用した企画展示、移動展示、各種講座、移動体験教室や講師派遣、学習支援の充実。 ●「くまもと手仕事ごよみ」の継承等を県民運動として展開していくための効果的な啓発イベントの実施やパブリシティ活動。		●熊本近代文学館の施設整備、各種展示会等の事業体系の確立及び専門職員の人材育成等を推進。 ●鞠智城に関する研究助成の実施やシンポジウムの継続的な開催。 ●「加藤・細川ヘリテージ(遺産)」プロジェクト各事業を展開。 ●「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」と「九州・山口の近代化産業遺産群」の世界文化遺産登録、「阿蘇」の国内暫定一覧表入りをめざした活動の展開。 ●県全域を活動のフィールドとしてとらえた県民参加の博物館活動を展開し、松橋収蔵庫全事業の参加者数をH27年度までに2万人に増加。 ●「くまもと手仕事ごよみ」を活用し、手仕事に係る情報が簡単に得られる仕組みを構築。
●松橋収蔵庫を拠点施設として、収集資料の展示、各種講座、移動展示や移動体験教室及び自然観察会等の学習支援事業を実施し、H24年度の目標(12,500人)を達成。 ●「くまもと手仕事ごよみ」研究会を開催した結果、H25年度の事業化を実現した。		●H26年秋にリニューアルオープン予定の熊本市立熊本博物館内に松橋収蔵庫の資料を活用した展示を行うための設計と展示制作を実施。 ●HPやフェイスブックの開設、シンポジウムなど多様な事業により、「手仕事」を生活に取り込んでいく県民運動を展開。		●収集資料を活用した企画展示、移動展示、各種講座、移動体験教室や講師派遣、学習支援の充実。 ●「くまもと手仕事ごよみ」の継承等を県民運動として展開していくための効果的な啓発イベントの実施やパブリシティ活動。		●県全域を活動のフィールドとしてとらえた県民参加の博物館活動を展開し、松橋収蔵庫全事業の参加者数をH27年度までに2万人に増加。 ●「くまもと手仕事ごよみ」を活用し、手仕事に係る情報が簡単に得られる仕組みを構築。
●水の国くまもとシンポジウム(340人参加)の開催、新聞・タウン誌等での広報(2回)などの取組みを行い、県民の「水の国くまもと」に対する認知度が向上。 ●H24年10月に改正地下水保全条例が全面施行となり許可制等がスタート。地下水保全対策の強化が進捗。		●水の国サミットの開催、「水の国くまもと」の戦略的広報展開の推進など、発信面の取組みを強化。 ●行政機関による地下水採取許可申請の働きかけ、各地域での許可手続等に関する個別相談会の実施などにより、制度を浸透。		●熊本は豊富な水資源に恵まれた水の国であることを広く県内外に発信するなどし、「水の国くまもと」の認知度を向上。 ●すべての既採取者が許可を受け、地下水涵養対策や節水等が取り組まれるように制度の周知を徹底。 ●地下水涵養量の維持・増大に向けた涵養域の保全。		●熊本県地下水保全条例等に基づき、大規模開発行為者に地下水涵養への配慮を求めるとともに、大口の地下水採取者に採取量に応じた地下水涵養対策を義務づけ、地下水涵養量を確保。
●阿蘇グリーンストックの安全装備品整備への緊急支援でボランティア活動の安全対策を強化し、活動再開に道筋。 ●H28年末の阿蘇探石場の終掘実現に向けた地元説明会の実施、環境省を始めとする関係機関との協議に着手。 ●違反広告物に対する是正指導で違反件数が約20%減少。		●世界農業遺産認定を活用した具体的な地域振興策の推進。 ●草原の維持管理を継続し、草原景観を守るため、阿蘇グリーンストックの取組みを引き続き支援。 ●阿蘇探石場の防災面に係る調査の実施。 ●違反広告物や未申請等広告物への是正指導の徹底と関係市町村の景観行政団体への移行を支援。		●野焼きボランティアの安全確保、再発防止。 ●阿蘇探石場の終掘実現に向けた関係者間で統一した基本合意の形成。 ●阿蘇の草原や景観保全の機運醸成につながるような計画等の策定や防災対策の検討。		●阿蘇グリーンストックが育成・派遣するボランティアの参加者が3,137人となるよう活動を展開。 ●H28年末の阿蘇探石場の終掘実現。 ●阿蘇地域の景観行政の担い手である管内市町村が全て景観行政団体に移行するよう支援。
●山鹿市番所地区で、県内初の景観農業振興地域整備計画(景観農振計画)を策定。 ●イエロープロジェクトの実施により、110haの面積で菜の花・レンゲを作付け。累計で実施団体44団体、実施面積386haとなり、景観づくりの活動が進捗。		●今年度スタートする「くまもと里モンプロジェクト」において、美しい景観の保全と活用に関する施策を全体的に推進。 ●山都町や阿蘇郡市の景観農振計画の策定を支援。山鹿市番所地区について、集落内の案内板や水飲み場の設置を支援。 ●100ha以上でイエロープロジェクトを実施し、新幹線、国・県道沿線等を中心に美しい景観づくりを促進。		●景観団体となる市町村の景観農振計画策定の推進。計画の策定のための住民のコンセンサスの確保。 ●新幹線沿線以外の国・県道沿線等の県内各地での景観づくりの展開。		●「くまもと里モンプロジェクト」により、美しい景観の保全と活用を継続的に推進。 ●山都町や阿蘇郡市、球磨村等で景観農振計画を策定し、将来に残すべき美しい農村景観の保全を促進。 ●イエロープロジェクトの実施団体が100～110団体、実施面積が700haとなるよう事業を展開。